

目的 最近の高齢化現象の加速に伴い、高齢者問題への対応が迫られている今日、高齢者問題に対する研究も次第に多くなってきた。著者らは、在宅老人と養護老人ホームにおける高齢者の食事への関心、満足度などについて調査し、食生活と生活環境とのかゝりについて検討する。

方法 神戸市西区押部谷町の在宅老人94名(以下在宅老人という)について、記入式留置き調査と聞き取り調査を行ない、回収率は94%であった。また、兵庫県多可郡八千代町の養護老人ホーム42名(以下老人ホームという)について、面接聞き取り調査を行なった。

結果 在宅老人の平均年齢は、70.6才、一世帯当たりの平均家族数4.8人で、老人ホームは、平均年齢75.5才、在園期間は長い人で17年、平均5.5年で、兵庫県内の人が多かった。本人の自己診断による健康状態は、両調査共にほぼ健康であるが多く、楽しみについては、在宅老人は、全員楽しみを持っており、老人ホームでは、楽しみのない人が16.7%であった。また、食事を楽しみとする人は、在宅老人で約20%、老人ホーム約15%で、両調査共女性の方が多し。喫食状況では、在宅老人の殆どが話をしながら喫食するのに反して、老人ホームは殆ど黙って食べており、これは老人ホームの特徴の一つであった。食事や料理についての関心、満足度は、在宅老人が高い傾向にあり、特に夕食についての満足度は高かった。老人ホームでは、朝食の満足度が高い傾向にあったが、量や献立については、比較的満足されているが、喫食時間、雰囲気についての不満がみられ、特に夕食についてはその傾向が強かった。